



村田 大輔

こんにちは、今年の冬は異常に寒かったですね。早く暖かくなれ～！でもそうすると花粉症で、鼻がムズムズするしといういろいろ考えている今日この頃の村田です。

最近よく家内の職場の招待で、下の娘と家内と三人で清水劇場お芝居を見に行きます。(職場の社長さんがここの役者さんとお友達みたいで)最初は年寄り臭いかなと思っていましたが、若い役者さんのお芝居が実に素晴らしい。芸の道だ～と感心したわけでありませう。そしてイケメンの座長さんが踊ると胸には扇型にした数十万円の大金が入り込んで、またまた素晴らしい。しかし日本全国を旅して大変な仕事ではありますね～！



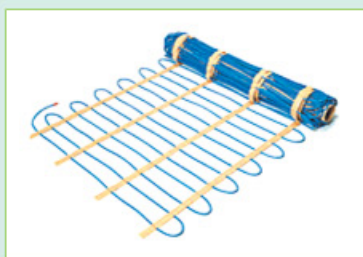
お湯を流すパイプを配管しました。これをコンクリートで埋め、お部屋になります。奥には五重塔が見えます。

話が本業に変わりますが先日宮島で床暖房を施工しに行ってきました。実は私は過去に宮島に行ったのは1回だけで今回が2回目でした。それにしてもこんなに近くにあるのに、ちょっとした小旅行に行った気分になる、なんとも素晴らしい所ですね。今回、施工させて頂きましたのは、名物の牡蠣をだす料理屋さんで五重塔の近くにありませう。とても眺めの良いお店です。オープンの情報は、また次回ご紹介できればと思います。

床暖房のまめ知識

前回は電気式床暖房を床構造により分類しましたが、ヒータの構造による分類方法もあります。

1 発熱線
ケーブルタイプのヒータです。



2 発熱シート
弾力性のあるヒータで、見た目は表面に直接物を置けなさそうなヒータです。



3 発熱ボード
ヒーターの表面が硬く見た目にも丈夫そうなヒータです。



(表1)

種類	名称	荷重 [N]	衝撃力 [N・m]	使用電圧
発熱線	第1種発熱線	300	3	100 又は 200
	第2種発熱線	600	6	600以下
	第3種発熱線	2,000	12	
	第4種発熱線	600	3	
発熱シート	第1種発熱シート	600	6	100 又は 200
	第2種発熱シート			
発熱ボード	第1種発熱ボード	2,000	12	100 又は 200
	第2種発熱ボード			

発熱線はヒータケーブルその物なので、**発熱シート**や**発熱ボード**の材料として使われたりコンクリート埋設(湿式工法)に使われます。**発熱シート**は直接上に物を置ける強度がないため、ヒータに直接荷重がかからない根太間工法に使われます。**発熱ボード**は強度があるため、フローリングなどを直接貼る床置き式に使われます。種類規格の違いは(表1)の通りです。

発熱シートと**発熱ボード**の厳密な区分の規格上の定義はなくメーカーがどの区分の規格で製品したかによります。私たち施工者は、より規格の厳しい方が安心して施工できるのですが、メーカーは規格が緩い方が商品にしやすいようで、特に新規参入メーカーは**発熱シート**が多いようです。

電気式床暖房はJISによるきちんとした規格と電気用品安全法による安全基準に基づいて製造される安心・安全な製品です。しかしながら最近はどう考えても基準にはまらないと思われる商品もあります。

私たちは20年、30年以上使用する耐久製品と考え、より頑丈な物を選択していきたいと考えています。



1 よくみれば簡単ね。

いつも『ぽかぽか新聞』のご愛読ありがとうございます。最近バタバタしていったい何をやっているのか記憶に残っていないサン・フロアホーム(株)の東です。

今年は公私とも忙しい、特に息子が大学入学で県外に行きます。先月はアパート探しで土日がつぶれ、何とか良い物件は見つかったのですが、最近の間取りは、ほとんどフローリングなんですね。

そこでベッドが必要。私は和室派なのでよくわからない。

インターネットで調べてみると出るわ出るわ、フレームもいろんな種類があるが特に迷うのはマットレス、ボンネルコイル・コイルスプリング・ウレタン・水・ゴム等々、調べれば調べるほど予算が、ああ～予算が高くなる。またこのマットレスの上に敷き布団がのいているの、布団無いとマットレス汚れると困るしな、と、ようわからん状態になりました。



インターネットは情報収集便利ですが、知れば知るほど良い物が欲しくなり困ったもんです。ということで今回は、プロに聞きに行くことにしました。予算内に収まるかな。



よっちゃんの巻

真剣にエコを考える。



エコは住宅設備から真剣に考えると、太陽エネルギーの活用なくしては語れないようである。そこで、**自作ソーラークッカーで太陽の力を感じよう。**

ソーラークッカーとは太陽熱だけを利用して、煮る、焼く、蒸すなどの調理を行う器具。パラボラ型や箱状にした鏡面で太陽熱を一点に集中させ高温を得るものです。

こいつで太陽の力を感じてみたい。既製品もあるけどせつ々しくないので材料を買い揃え頭の中のイメージで作ってみた。**初号機の誕生!**良いのか悪いのか分からないがやってみよう。

実験日の天候は日頃の行いがよいので晴れ、気温は冬なので7℃ってところ。**水360ml、15℃を100℃に沸かす事をめざす。**ぴかぴかの反射板を調整して黒く塗った急須に熱を集めます。しかし冬の太陽は高度が鋭角でなかなか難しいです。太陽はちゃんと西の空に傾いたので時間終了、100℃になっているか測定する・・・**45.5℃!! 失敗です。**

沸騰は無理としても触れないくらいにはと思っていたのに・・・なにが悪かったのか? 初号機かそれとも日頃の行いか? いずれにせよ勉強が足りなかった。弐号機ではちゃんちに沸かしたいね。

今回の実験で少しだけ太陽を意識し、感じる事ができた。太陽を利用するのはまだまだこれから。エコのために思考錯誤してみたいと思う。



あんまり高く見えない太陽です。

ちょっとお勉強

水360mlが15℃から45.5℃に温度が上がった。
熱量=比熱×質量×温度変化 より、
 $1 \times 360 \times (45.5 - 15) = 10,980 \text{ cal}$
この水は10,980 calの熱量を得ました。
数字にするとなんかすごいです。

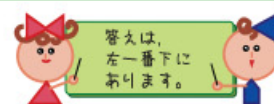


力作、初号機完成です。



温度測定中

ちよつと一服



算数の問題

次の式いくつになるでしょうか? 電卓をつかっちゃダメよ。

1 2

$2221 \times 3334 - 2223 \times 3331$

3 4

床暖房のことなら私たちにおまかせ下さい!!

サン・フロアホーム株式会社

〒736-0083 広島市安芸区矢野東4丁目13-10

☎ 082-888-5137

FAX 082-888-5243

www.sanfuroa.com

info@sanfuroa.com